

「小松先生の思い出」

石川 周子

この度小松先生には、古希をお迎えになられましたこと誠にめでとうございます。謹んでお慶び申し上げます。

小松先生には学生当時から今日に至るまで幅広く暖かいご指導を頂いており先生との思い出は尽きることはありませんが、私が先生にお目にかかる度に楽しみにしていることの一つに、明快な「小松節」を拝聴する事があります。好奇心旺盛でいらっしゃる先生のご興味は、言葉への関心・追求といったご専門の分野にとどまることなく、歴史、旅行、美術などの芸術、あるいは料理、果てはお酒と多岐に渡り、時にはユーモアを交えて明るくリズミカルにお話しくださるので毎回興味深くとても楽しく拝聴できるのです。深い知識や様々なご経験を背景にした先生のお話しはいずれも大変示唆に富んでいて、毎回私の心にズシンと響くテーマがありました。

先生と歓談に時を過ごさせて頂いた時間というのは何にも替え難い大切な思い出となっておりますが、一番印象に残るのは、やはり学問に向かわれる時の若々しい情熱に満ち溢れた先生のお姿です。先生ご自身のご研究のみならず、学生である私たちにも先生は常に明るく前向きな、そして大変にエネルギッシュなご指導をしてくださり、また、そうした先生のもとで勉学できましたことは私の人生においてかけがえのないプラスをもたらしてくれたものと言っても過言ではありません。

小松先生のこのお姿をお手本と致しまして、今後も私自身の生き方を向上させて参りたいと存じます。最後に、小松先生におかれましては、今後もますますお若くお元気で、なお一層ご活躍されますよう僭越ながらお祈り申し上げます。